

# YMFG NEWS RELEASE

2022年6月15日

各位

株式会社 山口フィナンシャルグループ

株式会社 YMFG ZONEプランニング

## 環境省「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業」への選定及び 周防大島町での取り組みについて

山口フィナンシャルグループ（代表取締役社長CEO 椋梨 敬介）の子会社であるYMFG ZONEプランニング（社長 藏重 嘉伸）は、環境省が公募した「地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体」に選定されましたのでお知らせいたします。

本事業の取り組みにおいては、地元の県立周防大島高等学校と連携し、地域課題解決に資する次世代の担い手を育成するESD学習モデルの構築及び、自然資源を活用した地元団体との連携によるエコツーリズムの推進を図ります。

※ESD (Education for Sustainable Development) …持続可能な開発のための教育

### 1. 取り組み背景

環境省では、持続可能な地域づくりに向けた取り組みとして地域循環共生圏（ローカルSDGs）の形成を進めており、各地域での地域循環共生圏の形成に向けたプラットフォームの構築を支援しています。今回の選定を受けて、YMFG ZONEプランニングが開発したコンテンツを活用し、地域の課題解決と次世代の担い手育成が連動する教育モデルの構築を進めます。

### 2. 具体的な実施内容（詳細は別紙参照）

#### （1）ESDモデルの構築

当社グループが県立周防大島高等学校に、経済産業省の“未来の教室STEAMライブラリー”へコンテンツ提供している「地域循環共生圏（ローカルSDGs）を学ぶ」を活用し、島全体をキャンバスとしたESDによる次世代の担い手育成の推進や、高校生などが自ら経済性などの視点を持って地域課題の解決に取り組む基盤をモデル的に構築することを目指します。

#### （2）エコツーリズムの推進

本事業を通じて当海域に群生するニホンアワサンゴをはじめとする豊かな自然資源の保全に取り組む団体と連携し、次世代の担い手育成、町外企業との連携など、様々な取り組みが連鎖的に生まれ、地域の自然の保全と共に資源の有効活用、活動を通じた担い手育成が循環する仕組みを構築することで、周防大島町における自然資源を活用したエコツーリズムの推進を支援します。

※なお、本件選定によりYMFG ZONEプランニングが環境省地域循環共生圏実践団体として登録されます。

### 3. 山口フィナンシャルグループのマテリアリティ

山口フィナンシャルグループは、持続可能な社会の実現に貢献していくために、「グループサステナビリティ方針」を策定し、この方針に基づき、重点的に取り組むべきESG課題である「マテリアリティ」を特定しております。本件は、12のマテリアリティの中で「②地域におけるイノベーション創出、地域産業の成長サポート」、「③地域コミュニティとの連携強化」、「⑤省資源・省/創エネルギーへの対応」、「⑥大気汚染・気候変動への対応」、「⑦環境に配慮した商品・サービス開発」の実現に資する取り組みです。

 <p>地域社会・ 経済活性化への 取り組み</p>	<p>①人口減少・少子高齢化への対応 ②地域におけるイノベーション創出、 地域産業の成長サポート ③地域コミュニティとの連携強化 ④商品・サービスの安全性と品質向上</p>	 <p>環境保全への 取り組み</p>	<p>⑤省資源・省/創エネルギーへの対応 ⑥大気汚染・気候変動への対応 ⑦環境に配慮した商品・サービス開発</p>
 <p>役職員全員の 働きがいへの 取り組み</p>	<p>⑧人材育成・研修機会の創出 ⑨安心・安全な労働環境作り ⑩多様な人材の活躍 (ダイバーシティ&amp;インクルージョン)</p>	 <p>強固な 経営基盤づくり への取り組み</p>	<p>⑪ガバナンス体制・内部統制の強化 ⑫経営の透明性向上と説明責任</p>

以上

#### 【本件に関するお問合せ先】

YMFG ZONEプランニング

担当：吉村・恩田 TEL：082-241-7820

令和4年度 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業（実施地域：山口県 周防大島町） 採択団体：(株)YMFG ZONEプランニング

## ■ 事業実施地域（山口県 周防大島町）の現状

### 【基本情報】

- 山口県南東部の瀬戸内海に位置し、全域が瀬戸内海国立公園指定される等、美しい景色や自然に恵まれている。
- 人口は15,539人、高齢化率は54.1%となり、人口減少・少子高齢化が顕著に進む地域である。産業は農業及び水産業が主要な産業となっている地域である。（※数値はいずれも令和2年9月時点）



### 【地域資源】

- 瀬戸内海国立公園では初となる「海域公園地区（町南東沖の海域）」に指定されている国内最大規模の二ホンアワサングの群生地（約3,000㎡）
- 地域の自然保全に向けたエコツーリズム等に取り組む多様な団体
- 地域創生を学ぶ学科を有する地元県立高校



（出所：町提供資料より）

## ■ 実施内容の想定

### ◎ ESDモデルの構築

- OECD（経済協力開発機構）がまとめた「Education2030プロジェクト」における中間報告では、多くの不確実性（VUCA）が伴う社会において、より自然界との共存が求められるとしており、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」を重要な行動特性としている。
- 町には地域創生を学ぶ科を有する高校が立地しており、同校と連携し当社の作成した地域循環共生圏の形成に係る学習ツールを活用し、島を実証のフィールドとして生徒自身が地域課題の探索から検討し、地域課題解決のアプローチ手法を学ぶことを通じたESDモデルの構築及び金融教育の推進を目指す。



（動画コンテンツの1コマ（当社作成））



（経済産業省未来の教室事業における課題探求・解決学習の指導風景）

### ◎ エコツーリズムの推進

- 地元で二ホンアワサングや自然景観の保全に取り組む団体と連携し、これらの資源を活用したエコツーリズムの推進について、令和5年に供用開始となるエコツーリズム拠点施設を核として取り組みについて検討を進めていく。
- 具体的には、現在実施しているトレッキングツアーに加え、二ホンアワサングを観察できる仕組みの検討なども進め、資源を活用した町内・町外からの新たな人の流れをつくり地域の活性化を進めていく。
- これらのエコツーリズム推進を行うと共に、次世代の担い手育成、町外企業との連携等、様々な取り組みが連鎖的に生まれ、地域の自然の保全と共に資源の有効活用、活動を通じた担い手育成が循環する仕組みの構築を進めていく。



（出所：山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会HP <http://tobu-ecotour.com/>）

## ■ 取り組みを通じて目指すありたい姿

- 当海域に群生する二ホンアワサングをはじめとする豊かな自然の活用を通じた保全を進めると共に、地域の子供たちをこの取り組みに参画させ、**町をフィールドとした地域課題解決における次世代の担い手としての育成を地元と連携し進めていく。**
- これらの自然環境の保全、**新たな地域課題解決の事業創出と連動しながら地域の担い手が育ち、地域の資源が循環していく地域作り**を目指すと共に、**地域創生教育モデル**としての構築を進めていく。

